

HUMANE
INTERNATIONAL
NETWORK
(HINT)

—————HINT News Letter No. 62 目次—————

- Page1: HINT31周年記念アフリカ講演会
Page2: アフリカ事業 2024-25 学用品配布報告
Page3-4: アフリカ・ブカブ現地報告
Page5: 教皇フランシスコのアピール
「アフリカから手を引け！」
Page6-7: 2025年度総会報告
Page7: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
Page8: 追悼 高橋章先生 HINT事務局からのお知らせ

HINT31周年記念アフリカ講演会
「コロニズムとコンゴ民主共和国の現在」
—第46回エポペ・クリスマス降誕ミサ—

日時：12月20日（土）14時00分～16時00分

場所：ミサ・講演会場 カトリック松原教会 記念ミサ14時～15時

後援費：1,000円 (京王線・明大前駅より徒歩5分・8ページの地図参照)

東京都世田谷区松原2丁目28番5号 TEL. 03-3321-0941

お申し込み・お問合せ⇒ <http://www.epopee.co.jp/toiawase.shtml>



当日参加歓迎！ 講演会後に自由参加による懇親会（会費別）を開催。

司式 カブンディ・オノレ神父 オリエンス宗教研究所所長（コンゴ民主共和国出身）



HINT（東京都認証NPO法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク）は、1994年に発生したアフリカのルワンダ虐殺時の難民支援のために、G・ネラン神父創設の「エポペ（美しい冒険）」に集った人々を中心に創設された東京都認証NPO（非営利活動）法人です。現在はイエス・キリストの教えにしたがい、開発途上国における教育や保健医療、農村開発などを通じて、国境を超えた支援活動を続けています。息の長い継続が必要な奨学金運営では30年以上の実績があり、教会や他団体との連携を活かしつつ、貧困状態が続く地域で多くの人材と希望を育んでいます。

アフリカ事業 2025-26年度 学用品配布報告

現地コーディネーターのアレン医師 (HINT 燐奖学金で医師となり、現地で活躍中) から、学用品配布式の様子についての報告をお伝えいたします。



ムサギ・イドゥンボ・アレン氏

学用品配布式の開催

1. 参加者の祈りと紹介
2. 歓迎の言葉と情報提供
3. 2024-2025年度 生徒の成績登録
4. 学用品の配布
5. 生徒、保護者代表、生徒によるスピーチと写真撮影

ダンボ・ネストール牧師による短い祈りの後、参加者は自己紹介をしました。HAP コンゴ民主共和国コーディネーターのマウサギ・イドゥンボ博士と会議議長は、参加者を温かく歓迎し、この会議への歓迎の意を表しました。

私たちのコーディネーターであり、自分の父親でもあるムサギ・タデーは医療上の理由でまだブジンブラに滞在しています。そのため、この活動の実現のために、私が父の代わりを務めています。

最初に、2025年8月28日、会議中に亡くなったプログラムマネージャーの高橋章先生を追悼し、1分間の黙祷が捧げられました。先生の永遠の安息をお祈りいたします。

この活動に割り当てられた資金の受領が遅れたため、この配布は 2025-2026 年度の開始日と比較して少し遅れて行われていることにお気づきでしょう。いずれにせよ、戦争の残虐行為を味わった後、生徒と教師が学校に戻るためのリズムを考えていきたいと思います。

現在、私たちのプログラムには 53 人の子供が登録されており、そのうち 12 人(女子 5 人、男子 7 人)が小学校レベル、41 人(女子 25 人、男子 16 人)が中学校レベルに登録されています。これらの戦闘中に子供たちが亡くなることがなかったことに、私たちは神に深く感謝しています。昨年度の生徒の成績報告において、一部の生徒が学費の支払いを完了していないことがわかりました。そのため、HINT 執行委員会に完全な報告書を提出できるよう、成績の提出を 1 週間遅らせました。

学用品の配布中、プログラムに登録された子供は合計 53 人 (うち小学校 12 人、中学校 41 人) でしたが、出席したのは 32 人の生徒だけでした。学用品は 1 つずつ配布され、キットは大きなコピー書、半分の大きさのコピー書、手書き用コピー書 1 冊、描画用コピー書 1 冊、数学セット 1 セット、ボールペン数本、定規 1 本、鉛筆 1 本、サポート 1 本。

学用品配布式の閉会に先立ち、生徒と保護者の代表による感謝のスピーチが行われ、閉会の祈りが捧げられました。

午後 2 時 30 分に始まり、午後 5 時 (ブカブ時間) に終了しました。学用品配布式は短い祈りで終了しました。

2025年9月14日(日)、ブカブにて
アベリス氏の家から
報告書 ムサギ・イドゥンボ・アレン
HAP コンゴ民主共和国コーディネーター 代理

アフリカ・ブカブ現地報告

2025年2月15日、「フルーヴ・コンゴ同盟(AFC/M23)」の反乱軍によるブカブ占領以来、南キブ州の住民が直面している日々の状況に関する現地からの報告をご紹介いたします。

1. はじめに

この報告書を執筆するにあたり、紛争当事者の治安部隊の手に渡った場合の危険性を認識しています。しかしながら、コンゴ民主共和国の人々が関心を持たない、指導者たちの政治的・経済的利益のこの有名な衝突によって、罪のない人々が傷ついた人々の苦悩の声を、国内外の世論に伝えるよう、私たちは慎重に行動しています。

2. 軍隊

昨年2月に連合軍 AFC/M23 の反政府勢力に占領されて以来、特にブカブの住民、そして南キブ州全体の住民は、比類のない苦難の日々を送っています。

ブカブの新政権が説く解放の喜びとは裏腹に、住民は実際には、ブカブの住民と近隣地域の住民があらゆる面で劣悪な状況に置かれています。

安全保障、心理、社会、経済、保健衛生、教育などについて、この簡潔な報告書の唯一の目的は、私たちの罪のない市民が直面している行為と、彼らが暮らす悲惨さを詳細に記述することにより、国民世論と国際世論に警鐘を鳴らすことです。

3. 現状

A. 安全保障レベル

昨年2月のブカブ町陥落以来、人々の殺害、少女への性的虐待、強盗、行方不明者、秘密の殺害、民間車両の奪取、若い男女の武装集団への強制徴募、公共の場での暴行、略

奪、人権に対するあらゆる種類の残虐行為など、不安定さが増していることに気づきます。

B. 心理的レベル

南キブの住民には心理的トラウマが根深く存在しており、その影響は例えばタイヤがパンクする音さえ恐怖を感じることで表れます。町では人々があちこちに逃げ回り、市場は閉まり、人々は家に帰ることを余儀なくされます。その結果、泥棒が放置された物を狙うという、恐ろしい光景が見られます。

C. 社会的レベル

一部の公務員の離職によって引き起こされた社会サービスの半分の機能不全、戦場から逃れる人々の大規模な避難、裁判所と刑務所の不在は、次のような事態を引き起こしています。

犠牲者が殺され、時には生きたまま焼かれる民衆への不正義、農産物の不足、食料品の価格上昇、銀行を通じて給与を受け取っている教師や公務員は、給与を受け取ることができなくなり、反乱軍に占領されていない地域に住む人々は銀行閉鎖のために多額の未払い金に直面しています。



生活環境はますます耐え難いものになりました。

D. 経済レベル

治安の悪化によりすべての銀行が閉鎖され、国営銀行の担当者が海外に避難せざるを得なくなつたことで、市内および州全体の経済活動が完全に麻痺（停止）し、銀行口座が凍結され、経済全体に悪影響を及ぼしました。闇市場の蔓延、物価の上昇、紙幣の不足、個人からの税金の回収は、国庫にとって大きな損失をもたらし、州内のすべての主要産品会社（ビール会社）の機能停止につながりました。

反乱軍により、国民の税金は隣国（ルワンダ）の銀行に送金され、この国の多額の税金を略奪し、戦争の資金に充てられています。

E. 教育レベルについて

生徒たちは、AFC/M23 の指示に従わなければならぬ一方で、WAZALEND（反政府軍の M23 に対抗する民兵組織。スワヒリ語で愛国者を意味する。政府軍と協力して M23 と戦うグループ）からの脅迫や威嚇に直面しており、「学校を爆破する」と脅されていました（南キブ州 フルング地域の重要交通の要衝であり、戦略的な村であるニャンゲジにおける最近の攻撃）。

他方で、親たちは経済的に不安定な状況にあり、それに伴う影響で、子供たちに学校の備品を提供するのが困難であるという問題もあります。また、経済的手段の不安定さと、上記で述べた経済的影響のために、親が子供たちを学校に行かせて教育をすることに苦労しています。

F. 衛生レベルについて

戦争の影響は、多くの保健センターで記録されたコレラの流行によって示されており、雨期に住民を死に至らしめる事例も言及されています。

飲料水の不足、食料の不足、良い住居の不足、

により多くの家族が、子供を蚊や寒さや雨水、汚染された水にさらしています。

また、医薬品の不足、医療へのアクセスの欠如が、私たちを襲っている結果であることも注目してください。

結論として、冒頭で述べたように、この報告書の目的はただ一つ、現場で実際に起こっていること、そして地下資源の力と豊かさを求めて、反乱軍が起こしているこの戦争によって、死にゆく惨めな人々の悲鳴について、HINT の支援者の方々、日本国民、そして国内外の世論に警鐘を鳴らすことです。

これはまた、永続的な平和と自然地域の社会経済発展の促進を願う人々の強い意志を表明する機会でもあります。NGO や地方自治体、国家当局への人道支援の要請は、依然として何の返答もありません

2025年9月18日、ブカブにて作成

医学博士 ムサギ・イドゥンボ・アレン

HAP コンゴ民主共和国コーディネーター 代理



奨学生たちが学んでいるコンゴ民主共和国の南キブ州ブカブの位置

教皇フランシスコのアピール 「アフリカから手を引け！」

カブンディ・オノレ（オリエンス宗教研究所所長・カトリック淳心会司祭）

聖年の最中、またキリストのご復活の翌日に帰天された教皇フランシスコは、真の希望の巡礼者だった。宗教対立の危機、不寛容と世俗的な懷疑主義の時代に、教皇フランシスコの教皇職全体は、信仰と現代人の希望をつなぐ靈的な証しとなった。笑顔と抱擁で、病気の人、貧しい人や難民と移民、さまざまな危機（戦争、虐待、暴力、災害）の被害者などに深い共感を示した。

さらに、フランシスコは、苦しむ人々、忘れられた人々の中に神の顔を見いだした教皇であったという印象を残した。例として、私の母国であるコンゴ民主共和国へのご訪問の際、アフリカを圧迫する世界の権力者や経済的植民地主義者に対して訴えたお声が今もなお心に響いている。彼らに対して、過去に犯した「壊滅的な」不正を認め、天然資源の継続的な略奪を終わらせるように強く訴えられた。

教皇フランシスコは、2023年1月31日から2月5日にかけて、第四〇回司牧訪問でアフリカの二カ国、コンゴ民主共和国と南スーダン共和国をまわった。両国はカトリック信者が人口のほぼ半分を占める国である。特に、母国コンゴ民主共和国（旧ザイール）はフィリピン共和国及びメキシコ合衆国に次いで世界で三番目に多い信者数を持ち、最も敬虔なカトリック教国の一つに数えられる。

コンゴ民主共和国への教皇フランシスコ訪問は、聖ヨハネ・パウロ二世の1985年二度目の訪問以来、人々が長く待っていた教皇訪問であった。教皇聖ヨハネ・パウロ二世の二度目のザイール（現在のコンゴ）訪問では、1964年に兵士に殺された修道女アヌアリテ・ネンガピタを列福した。二度目の教皇訪問の前にも後にもカトリックの人口は増加しているが、政治情勢は非常に緊迫している。教会と政治家との関係は悪い。1960年にコンゴは独立したとは言え、経済的植民地主義にとらわれている。複雑な状況と危機に陥ったコンゴは1985年以来教皇の訪問を受けなかつた。

世界に忘れ去られたコンゴ民主共和国の悲

惨な状況を聞いたフランシスコは心を痛め、コンゴを訪問することを決定したのである。教皇フランシスコがこの国を訪問した時期は、搾取者の侵略によって国が混乱を極め、苦しんでいる時であった。天然資源が豊富で、大きな国土を持ち、しかも、九カ国の隣国に接しているコンゴはその自然、資源、特にその国民においてダイヤモンドのような国だが、しかしこのダイヤモンドは争い、暴力の原因となり、逆説的に人々を貧しくしてきた。コンゴは資源が豊富でありながら、終わることのない戦争で血を流し続けている。それも常に、争いの炎をあおる誰かがいるためであると、教皇は明らかにした。

コンゴの首都キンシャサに到着すると、教皇は、未だにコンゴやアフリカ大陸を搾取の対象と見なして引きずっている「植民地魂」を批判した。コンゴ民主共和国に眠る莫大な天然資源の外国勢力によるなりふり構わぬ搾取を糾弾した。コンゴでの「醜悪な搾取」を非難するとともに、教皇は「同国の膨大な鉱産資源やその豊かな富が、戦争や難民、飢餓を助長している」と訴えた。外国の利害関係者が利益を上げるためにコンゴを切り刻み、市民を奴隸のように扱っている。このような「経済的植民地主義はコンゴの人々を奴隸にし、彼ら自身の土地にいながら自分たちが『よそ者』になってしまう」と教皇は強く非難した。

国際社会に向けた彼のメッセージは著しく際立っていた。「コンゴ民主共和国から手を引け！ アフリカから手を引け！ この国を窒息させるのをやめよ。この国は採掘する鉱山でも、略奪する土地でもない。アフリカが自分自身の運命の主役になりますように！」と力強く呼びかけた。さらに、コンゴを含むアフリカ諸国で「忘れられた大虐殺が進行中である」と述べ、国際社会に「世界の全ての紛争地や貧しい国に平等に支援を提供する必要がある」と訴えた。

コンゴの苦難、危機は根深く、東部コンゴをむさぼる暴力に対して国際社会は実質的に背を向けてしまっている。だからコンゴについて語るときに「世界に忘れ去られた危機」について語るような気がする。

※月刊『福音宣教』7月号（オリエンス宗教研究所刊）「教皇フランシスコのイザヤ書に沿ったアピール——『アフリカから手を引け！』（上）」より転載。全文は以下を参照
<https://note.com/oriens/m/m6170768cf559>

2025年度総会報告

下記のとおり、2025年度総会を開催しました。
すべての議案が承認可決されましたので、ここに
ご報告いたします。

記

- 日時：2025年6月29日(日)14:00～14:40
- 場所：カトリック松原教会2階会議室(東京都世田谷区松原2丁目28番5号)
- 正会員数12名(出席4名、委任状8名)

1. 2024年度事業報告

アフリカ事業

2023年9月に始まり、2024年6月に終了した学期では、小学生8名、中高学生36名、合計44名の児童・生徒の学資支援事業を実施しました。

2024年9月に始まり、2025年6月に終了予定の学期では、小学生8名、中高学生36名、合計44名の児童・生徒の学資支援事業を実施しました。

※添付の奨学生の成績一覧(個人情報保護のため一部カット)をご覧ください。皆さまの温かいご支援に心より深く感謝申し上げます。

2. 2024年度決算報告

右記をご覧ください。

3. 2025年度役員改選

| | | |
|--------|----|----------|
| 代表 | 進藤 | 重光(再任) |
| 事務局長 | 石田 | 達也(再任) |
| 事務局長代行 | 長野 | 圭子(再任) |
| 理事 | 高橋 | 章(再任・逝去) |
| 理事 | 桐山 | 泰征(再任) |
| 理事 | 野坂 | 俊弥(再任) |
| 監査 | 武井 | 秀彦(再任) |

4. 2025年度事業計画

アフリカ事業では新たな奨学生の選考も終わり、奨学生に対して現地の新学期の9月より前年度同様に支援を行っています。

詳細につきましては、事務局保管の議事録を参照してくださいますようお願いいたします。

5. 2025年度予算計画

次ページをご覧ください。

世界的な物価高騰と為替レートの変動によって、皆さまの温かいご支援だけが、厳しい状況下にある現地の子どもたちの大きな希望となっております。引き続きのご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。

2. 2024年度決算報告

2024年5月1日～2025年4月30日 単位：円

| | | |
|-----|--------------|---------|
| I | 経常収益 | |
| 1 | 受取会費 | |
| | 正会員受取会費 | 88,000 |
| | 賛助会員受取会費 | 737,000 |
| 2 | 受取寄附金 | |
| | 受取寄附金 | 66,223 |
| 3 | 受取助成金等 | |
| | 受取補助金 | 0 |
| 4 | 事業収益 | |
| | 普及啓発事業収益 | 7,000 |
| 5 | その他収益 | |
| | 受取利息 | 237 |
| | 経常収益計 | 898,460 |
| II | 経常費用 | |
| 1 | 事業費 | |
| (1) | 人件費 | 0 |
| (2) | その他経費 | |
| | 経済的支援事業 | |
| | 奨学金 | 206,535 |
| | 保健衛生費 | 0 |
| | 福利厚生費 | 297,711 |
| | 情報発信危機支援 | 95,508 |
| | 送金手数料 | 30,000 |
| | 普及啓発事業費 | |
| | 出展料 | 0 |
| | 原材料費 | 0 |
| | 会議費 | 0 |
| | 講師謝礼 | 20,000 |
| | 雑費 | 10,000 |
| | 広報事業費 | |
| | 通信費 | 41,655 |
| | 印刷費 | 16,697 |
| | 消耗品費 | 2,240 |
| | その他経費計 | 720,346 |
| | 事業費計 | 720,346 |
| 2 | 管理費 | |
| (1) | 人件費 | 0 |
| (2) | その他経費 | |
| | 通信費 | 26,432 |
| | 会議費 | 3,300 |
| | 消耗品費 | 0 |
| | 印刷費 | 0 |
| | 雑費 | 0 |
| | その他経費計 | 28,200 |
| | 管理費計 | 28,200 |
| | 経常費用計 | 748,546 |
| | 当期経常増減額 | 149,914 |
| | 税引前当期正味財産増減額 | 149,914 |
| | 法人税、住民税及び事業税 | 0 |
| | 当期正味財産増減額 | 149,914 |
| | 前期繰越正味財産額 | 691,833 |
| | 次期繰越正味財産額 | 841,747 |

5. 2025年度予算計画

2025年5月1日～2026年4月30日 単位：円

| | |
|--------------|-----------|
| I 経常収益 | |
| 1 受取会費 | |
| 正会員受取会費 | 11,000 |
| 賛助会員受取会費 | 500,000 |
| 2 受取寄附金 | |
| 受取寄附金 | 50,000 |
| 3 受取助成金等 | |
| 受取補助金 | 0 |
| 4 事業収益 | |
| 普及啓発事業収益 | 20,000 |
| 5 その他収益 | |
| 受取利息 | 1,000 |
| 経常収益計 | 681,000 |
| II 経常費用 | |
| 1 事業費 | |
| (1)人件費 | 0 |
| (2)その他経費 | |
| 経済的支援事業 | |
| 奨学金 | 600,000 |
| 保険衛生支援 | 10,000 |
| 福利厚生費 | 400,000 |
| 情報発信機器支援 | 100,000 |
| 送金手数料 | 50,000 |
| 普及啓発事業費 | |
| 出展料 | 30,000 |
| 原材料費 | 50,000 |
| 会議費 | 30,000 |
| 講師謝礼 | 50,000 |
| 雑費 | 0 |
| 広報事業費 | |
| 通信費 | 60,000 |
| 印刷代 | 30,000 |
| 消耗品費 | 10,000 |
| その他経費計 | 1,420,000 |
| 事業費計 | 1,420,000 |
| 2 管理費 | |
| (1)人件費 | 0 |
| (2)その他経費 | |
| 通信費 | 50,000 |
| 会議費 | 20,000 |
| 消耗品費 | 10,000 |
| 印刷費 | 10,000 |
| 雑費 | 12,747 |
| 管理費計 | 102,747 |
| 経常費用計 | 1,522,747 |
| 当期経常増減額 | -841,747 |
| 税引前当期正味財産増減額 | -841,747 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 0 |
| 当期正味財産増減額 | -841,747 |
| 前期繰越正味財産額 | 841,747 |
| 次期繰越正味財産額 | 0 |

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿

(2025.5.1-10.31・順不同・敬称略)

| | |
|--------|----------|
| 森川 浩一郎 | 酒井 匠 |
| 末永 恵子 | 畠山 千秋 |
| 春日井 明 | 石田 達也 |
| 奥本 大雅 | 末永秀雄・美津代 |
| 加藤 順子 | 安藤 和彦 |
| 桐山 泰征 | 市川 幸一 |
| 村井 厚子 | 大野 容子 |
| 禹 満 | 山田 篤 |
| 岡田 直子 | 岸田 万紀子 |
| 高澤 佳代乃 | 古城 かほる |
| 武田 知子 | 谷口 義武 |
| 比嘉 勇也 | 久米 一誠 |
| 野坂 俊弥 | 窪田 愛子 |
| 長野 圭子 | 匿名の皆様 |

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★左記期間内に会費納入やご寄付をされている方で、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方の最終振込み日です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書でご記入いただきますと大変助かります。

会費振込のお願い

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただき、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします（賛助会員：1口5,000円から・学生会員：1口2,000円から。ご寄付ご随意に）。

■郵便振替：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行：

記号 10010 番号 26990711

（他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711）

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行：新宿支店

普通預金：3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

追悼 高橋章先生



HINT の理事として四半世紀に及ぶアフリカ担当業務執行役員であり、私たちが愛し尊敬する高橋章先生は、さる 2025 年 8 月 28 日 (木曜) 21 時 11 分、神田駿河台の日本大学病院にて天に召されました。享年 74 の生涯でした。

現地コーディネーターからの哀悼メッセージ

親愛なる HINT 理事会メンバー、親愛なる寄付者、高橋章先生のご家族、親愛なる学生の皆様。

HINT のプログラムマネージャーである親愛なる高橋章先生の予期せぬ死の知らせを知ったのは、苦味、痛み、悲しみに満ちた心でした。この死は私たちにひどいショックを与え、私たちの組織と日本大学国際関係学部に空白を残しました。

しかし、私たちは彼の魂が私たちの主イエス・キリストと共に安らかに眠り、私たちの神である主がこの困難な時期に家族を慰めてくれることを祈ります。

現地スタッフ、保護者、OB・新入生を代表して、心からお悔やみ申し上げます。

ムサギ・K・サディー、ワタキシ・ワンガ、医学博士 ムサギ・イドンボ・アレン

高橋 章 (たかはし あきら)

1951 年、東京生まれ。1976 年、日本大学大学院修士課程修了。1981 年、東京神学大学大学院修士課程修了ののち、アレン国際短期大学教授。日本大学国際関係学部教授、国際文化表現学会会長などを歴任。カトリック社会問題研究所や YMCA の世界的なサポート団体である

ワイズメンズクラブ国際協会のメンバーとしても長きにわたり支援をされていました。

HINT の役員としては、カトリック東京大司教区の司祭だったジョルジュ・ネラン神父（元真生会館理事長）創設のエポペから生まれた NGO ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) の役員として 2000 年から参画。後に正式な東京都認証 NPO 法人 (2002 年) となってからは、アフリカ担当常任理事として、現地コーディネーターとの連絡・調整などや講演会のゲスト紹介など、ご自身が持つておられる幅広いネットワークを生かし、厳しい状況にある現地の奨学生を育てる責任の重い業務を続けてくださいました。

温厚な人柄は誰からも好かれ、キリスト教神学や哲学は勿論、米国や中国をはじめとする国際問題についての的確な講義は学生からも人気で、中国・上海や米国・ハワイの大学などでも指導をされていました。留学生を温かく迎え、面倒見のよい優しい教授として慕われていた、高橋章先生の永遠の安息を心よりお祈り申し上げます。

HINT 事務局からのお知らせ

HINT31 周年記念アフリカ講演会(第 46 回 エポペ・クリスマス 2025 への後援)

日時 : 2025 年 12 月 20 日 (土)

ミサ・講演 14:00~16:00 後援費 : 1,000 円

場所 : カトリック松原教会 (京王線明大前駅下車徒歩 5 分) 改札を出て左に進み、ガードをくぐって最初の通りを線路沿いに右に進む。工事中の場所を左に迂回し、右に進むと、右手に踏切が見えるので、踏切のほうには行かず逆の左へと進み、喫茶店の角を右に進む。

<カトリック松原教会地図>



特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田 3-24-7 グリーンビル 2F 平兵衛 2 内

電話 & FAX: 03-6279-1080

ご連絡・お問い合わせ <http://www.epopee.co.jp/hint>